

大学院派遣研修での研究内容の概要

所 属 校	武蔵村山市立第十小学校	氏 名	飯室 一
派遣大学院	東京学芸大学大学院	専攻・コース	美術教育・美術教育
研究テーマ	美術教育における児童・生徒の統合的経験について ～感情・知覚・思考の現れと、自己同一化をうながす指導のあり方～		
<p>1 研究の目的（学校における現状、課題、課題を解決するための研究の位置付け）</p> <p>現在、様々な改革が進行し、社会が大きく変化しつつある。その対応にも即応力が求められている。美術教育の分野では、教科教育としての方向性が、総合的な学習の時間や教科の再編のこととの絡みで語られたり、課題として取り上げられたりしている場合もある。また、指導観や評価観について意識の変革を迫られ、それらを実行し、見える形での成果が求められている。美術科教育の現在は、一つの大きな転換点であると考えられる。これらの状況に鑑み、これまでの自分自身の授業を振り返る必要から、造形活動を盛んに行っている過程で、児童・生徒の心の中でどのようなことが起きているのか、創造活動の過程での自己同一化のありようを様々な事例から探ろうと考えた。このことは、知の総合化と呼ばれるこれからの教科教育のあり方と図画工作・美術教育との関連を探ることへも発展可能な研究主題であり、「生きる力」につながる美術教育のあり方を考えることにもなると考え、研究主題として設定することとした。</p>			
<p>2 研究内容（方法・経緯・内容等）</p> <p>本論は、図画工作・美術科における児童・生徒の統合的経験の意味世界を探求することを目的に、授業スキル（ことばに表せないスキルのことも含めて）、また技術指導のこと、教えられる・られないの問題、教育と美術との出会いなどについて、子どもの〈経験〉の視点から考察し、整理しようと試みたものである。</p> <p>まず、自称の人代名詞を〈私〉と定めて書き進める方法によって、私自身が主題をより鮮明にしようとした。そのことによって、結果として内容を読み手によりよく伝えることができるのではないかと考えた。〈私〉を語る語り口によって自己を振り返りながら、目の前の子どもの「現在」を語ろうとしたのである。危うい時代の子どもたちの状況、子どもたちの生活をめぐるとピックスを布置し、読み手がその細部に感応するならば、教育をとりまく状況論の全体性と同時に、〈経験〉、統合的経験の意味、自己同一化をうながす工夫などの理念やイメージの群れに気づく仕掛けをほどこした。エッセイの思想の根幹は、細部へのまなざしであり、そこは〈経験〉の息づく場所でもある。美術教育においても「〈私〉を表現することに意義がある」と措定し、図画工作科授業における茶の湯をメタファーとして「お膳立て」と「もてなす」との指導の二概念を提示した。その具現化として、子どもたちの選択する力や判断力などを養い高めることを願って開発した題材例を提案した。そして、私は授業スキルとして成立しがたいもの、私と子どもとの関係性のうちに成立するようなもの、この「～のようなもの」を静思したいと考えた。ある時、子どもたちと過ごしていた図工の時間中に、ふと次のような考えが思い浮かんだ。（今、この授業中の私と子どもとの関係を「茶の湯」に喩えることができるのではないだろうか）と。茶の湯とは、季節季節の自然の</p>			

うつろいの中で人を招き、懐石という食事を用意し、一服のお茶をたてて、客と主人が心を一つにしてより深い人間関係を作りあげていく、もてなしもてなされての自然なる心の表現である。客と主人は、児童と教師、子どもと私というふうには考えられるのではない。図工の時間に子どもを招き、もてなす。私には「もてなす」という概念が、美術教育における「教師の指導性」と「児童の自発性」との関係性の隠喩として思い浮かんだのであった。

亭主は準備怠りなく、一服のお茶に心をこめる。この所作に図工の授業を重ねると、題材を子どもに手渡しする瞬間が私には思い浮かぶ。このように亭主である私が自己を差し出すことによって、お客である子どももその心をくみとる。その相互関係が学習を成立させている。メタファーとしての茶の湯とはこのような状況のことである。

人それぞれの経験は、予め計画することはできないが、亭主が「部屋や庭をきれいにし、花を入れ、香をたき、その趣旨にあった掛物を掛け、一服のお茶に心をこめる。」ように、教師であるところの私は、授業という一連の世界に、子どもが浸り、悟る行為をお膳立てする。私は、このまるごと全体の経験世界を「統合的経験」と名辞し、授業を、私が教師としてお膳立てしておく世界としてとらえ、子どもが出会い、浸るその世界全体のことを「統合的経験」と名付けることとした。子どもにとって統合的経験の場であるところの授業を仕組みたいと考えたのである。そのときの場を支える概念が、「もてなす」である。

3 研究成果と課題

研究を通じて、以下のことが結論として浮かび上がった。

〈経験〉の意味は、先に「こういうことですよ」と解答があつてそれに向かつていくことではない。行動と結びつけることで、思想の意味をはっきりさせていくことである。私は〈経験〉をもとに、「物事を自分のおかれた状況の内部から見る。そこから始める。」「ものと親身に交わること。ものを外から知るのではなくて、身に感じて生きること。」という考えにたどり着いた。これは題材の背景としての思想でもある。表現する側の子どもの立場から考えると、「真実を追究して、おもいを形づくること」「内面的真実を深いものにし、より現実への認識を鋭利にすること」は、きっかけや、はたらきかけを必要とする。そこに、寄り添う他者の存在と、価値のある題材による授業の必然性がある。そのことを私は「お膳立て（経験を仕組むこと）」と呼ぶこととした。また、その授業の必然性を核として学習を展開する際の指導概念の一つとして「ランドネ」という言葉についても研究の過程で知見を得た。「ランドネ」は、遊歩道・散策の道・回遊の道を意味する。目的地に向かつて最短の道をとる「メソッド（method）」に対置した言葉である。私は図工の授業において「ランドネ」を構想することの重要性に気が付いた。図工では、子どもたちがもつ言葉や形にならない思いに寄り添うことが重要なのである。

私は「もてなす」を指導の中心概念として提言したのであるが、ここにたどり着くまでには、紆余曲折あつた。これもまた「ランドネ」である。何よりも私自身がそのようにしてもらいたいように、ひとにしてやらねばならないと思い、そして「もてなす」が私の経験から導き出されたものであり、それを体現していくことが私の生涯の仕事であるという思いから、ようやくこの概念に到達することができたのである。

大学院派遣研修成果活用状況

所 属 校	武蔵村山市立第十小学校	氏 名	飯室 一
派遣大学院	東京学芸大学大学院	専攻・コース	美術教育・美術教育
研究テーマ	美術教育における児童・生徒の統合的経験について ～感情・知覚・思考の現れと、自己同一化をうながす指導のあり方～		
1	<p>派遣以前に、東京都教育研究員、東京の教育21委員、教員研究生などにおいて美術教育に関する専門性を磨く機会を得ていた。この度、さらに大学院において専門性を深め、日常の教育活動に生かすことができるようになった。</p> <p>それは例えば、授業観察時に提出している図画工作科指導案の中に指導と評価の一体化のあり様を見て取ることができることから言える。</p> <p>学校経営については、常に協調・協力を心がけているが、さらに大学院で学び、専門分野の見識を広めたことにより、従前に増して全体的視野で校務を推進し、学究的な知の基盤が実務に生かされるようになった。研修後、所属校に復帰して、早速、教務主幹として授業改善推進プランの策定に力を注いだり、本校が自負できる内容のプランを作成するなどの力を発揮することができた。学校運営全般にわたり、副校長と協力して適正な教育課程の実施・教育計画の実現に努めている。また今年度実施が決まった漢字検定など、学力向上のための市の施策をいち早く計画化して、本校教職員に理解・浸透させるなどの学校運営にも尽力した。これも研修後の大きな変容である。主幹として初任者の指導、レポートの添削など若手教員の相談にのるなど、指導の中に派遣研修の成果が現われている。</p>		
2	<p>このように校内における他の教員、組織等への還元ばかりでなく、学校外（地域・他校・教育委員会等）へも還元されていると考える。たとえば、教務主任会に毎月持参するレポートの内容を見ると、大学院において美術教育に関して、広く且つ深く学んだことが自然とレポートの行間に滲むようになり、充実した記述になった。とりわけ、本校の特色ある教育活動や実践紹介は他校の参考ともなっており、学校外にも十分に還元されている。</p> <p>さらに、市内の若手教員の図画工作科研究授業を立ち上げ、指導するとともに、講師を招聘して研究会を実質的に導くなど、自己の研究成果が自信となって中心的な行動へと駆り立てていることは大きな成果活用の例と言える。</p> <p>期日：平成17年10月26日（水）</p> <p>場所：武蔵村山市立第二小学校</p> <p>参加対象者：市内教職員</p> <p>参加数：14人</p>		

<p>3</p> <p>成果を生かした研究授業等</p>	<p>日頃から、子どもたちが楽しく創造的な造形活動が行えるように図画工作の題材を用意して、学習目標を明確にした授業実践を心がけており、図工室ではいつも子どもたちが生き生きと楽しく製作しているが、さらに現在では、大学院での研究において理論的な裏付けの確証を得ることができたので、画像と音声記録とを用いた学習場面のエスノメソドロジ的分析により指導と評価の一体化を図っている。そのことによって児童理解が深まっており、適切な評価が行われている。</p> <p>また、校内研究などの教育活動の質の向上に寄与している。大学院での学究的経験を経たことにより、校内研究をはじめとして校務全般について、確固とした裏付けを持って指導・助言できるようになったことは大きい成果である。</p> <p>さらに、過日実施された授業改善推進プランに基づく東京都教育委員会特別訪問において授業実践し、担当指導主事から指導案の構成や内容につきお褒めの言葉を頂いたばかりでなく、他の教員の模範例として紹介されたことは自信をさらに深め、大学院修了の成果として実感することができた。</p> <p>期日：平成17年12月16日（金） 場所：武蔵村山市立第十小学校 参加対象者：本校教職員 参加数：28人</p>
<p>4</p> <p>今後の活用計画等</p>	<p>本校では、学校像として人間力を高めることを目指している。その具体的内容の一つには、自ら進んで学ぶ態度を養い、学力向上を進めるということがある。自ら学ぼうとする積極的な態度を児童に培うためには、教師自身も自己研鑽に努めていることが重要である。大学院において学んだことにより、現代の様々な教育課題に応え、社会状況の変化に対応でき、職務に前向きで柔軟に思考できる教師となるための下地を構築することができた。</p> <p>先日、他校の若手教員が自分の研究授業前に私を訪れ、指導案の検討や題材について相談していった。専門性を生かす道として、このように若手教員の指導なども視野に入れていきたい。また、専門科目に関わらず、学校運営に一層積極的に関わる立場に進み、能力を発揮していきたいとも考えているところである。</p> <p>大学院における2ヵ年の研究成果は、直接的には自己の授業改善に役立つものであり、今後はさらに美術教育の学校教育での意義を授業実践で示していくことが重要である。</p> <p>また、今後の公立学校教職員としての職務遂行にあたっても一定期間に集中的に専門領域の研究をすることによって得られたものは大きかった。研究にかかわる討論や修士論文執筆を通して論理的な思考の訓練がなされ、学校運営の立場での発想や行動の基礎を培うことができたので、役立てていきたいと考えているところである。</p>

図画工作科学習指導案

日時：平成 17 年 12 月 16 日（金）第 1 校時

場所：武蔵村山市立第十小学校（図工室）

指導学級：第 5 学年 1 組

（男子 20 名、女子 20 名、計 40 名）

授業者：飯室 一

1 題材名

「線を集めて、すてきなかざり」（A 表現 (2) ・ 4 時間）

2 題材の目標

紙テープやリボンなど、細長い線状の材料は編んだり組んだりするとおもしろい形になったり、美しさが生まれたりすることに気づき、それらを基に想像をふくらませ、手などを働かせ、飾るものをつくるたのしさを味わいながら、工夫して表現する。

○題材の評価規準と学習活動における具体的評価規準

	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
題材の評価規準	紙テープやリボンなど、細長い線状の材料を編んだり組んだりするとおもしろい形になったり、美しさが生まれたりすることに気づき、それらを生かした表現を楽しもうとする。	紙テープやリボンなど、細長い線状の材料を編んだり組んだりしてできる色や形の組み合わせから、思いを膨らませ、表したいことが表れるように構想する。	材料の特徴や用具の特性を生かして、編んだり組んだりするつくり方を選んだり、いろいろ試したりして表したい感じになるよう表現を工夫する。	自分たちの作品の表し方の違い、色と形の組み合わせによる感じの違いに気づき、手掛けた工夫のよさや面白さを見つけ合い、自分の感じ方や見方を深める。
学習活動における具体的評価規準	①細い線状の材料を編みこんでできる色と形の組み合わせの面白さを生かして表現することを楽しもうとする。 ②細い線状の材料を編みこんでできる色と形の組み合わせの面白さなどの感じに気づき、それらを生かした表現を楽しもうとする。 ③自分たちの作品の表し方の違い、色と形の組み合わせによる感じの違いなどに関心をもって見る。	①様々な形のよさや美しさなどの自分の感じ方を大切にして想像を膨らませる。 ②細い線状の材料を編みこんでできる色と形の組み合わせから思いを膨らませ表したいことが表れるように構想する。	①材料の特徴を生かして、編んだり組んだりするつくり方を選んだり、いろいろ試したりして表したい感じになるよう表現を工夫する。 ②用具の特性を生かし、また適切に扱いながら、自分らしい美しさや面白さなどの感覚を働かせ、表したい感じになるよう表現を工夫する。	①自分たちの作品の表し方の違い、色と形の組み合わせによる感じの違いに気づき、手掛けた工夫のよさや面白さを見つけ合い、自分の感じ方や見方を深める。

3 児童の実態

本学年・図画工作科の指導では、これまで年問題材配列を工夫して主題を明確にしたり、導入時に題材のめあてを板書して児童への理解徹底を図るなどしてきた。また、素焼きのやきものや、しなベニヤを電動糸鋸で加工するなど、様々な材料・用具に慣れ親しむよう配慮して造形活動に取り組んできた。その結果、夢中になって製作し、自分が何を作りたいかを明確にもち、題材のめあてを理解して製作している児童が多い。しかし、一方では自分の思いはあってもそれを描いたりつくり続けることに自信が持てないために、意欲が薄れてしまうこともある。

4 指導計画

(1) 編んでみたら、こんなにきれい (2 時間 $\frac{1}{4} \cdot 2 \div 4$)

(2) 組み合わせたら、もっと面白い (2 時間 $\cdot \frac{\text{本時 } 3}{4} \cdot 4 \div 4$)

5 授業改善推進プランとの関連

自分の思いはあってもそれを描いたりつくり続けることに自信が持てないために、意欲が薄れてしまうような児童の実態を改善するためには、個々の児童の表現を教師が認めたり、児童が互いによさを認め合ったりすることが自信につながるのではないかと考え、あえて個別に対応する場面や、児童相互が鑑賞し認め合う場面を学習展開中に取り入れることとした。

自分の作品を教師や他の児童に観てもらったりして、友だちの作品からよさを感じ取り自己の表現に生かすことなどを指導していきたいと考えた。

6 本時の指導 (3 / 4)

(1) ねらい

前時までには表現したことを基に、自分たちの作品の表し方の違いや、色と形の組み合わせによる感じの違いに気づき、手掛けた工夫のよさや面白さを見つけ合い、それらを生かして表現することを楽しむ。

(2) 展 開 (全4時間扱いのうち3 / 4時、45分)

	学 習 活 動	指 導 事 項	☆評価 ◇支援
鑑賞 10'	<p><u>お互いの作品の素敵などころを発見しよう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 気づいたこと、発見したことをカードに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアーになった相手に1枚、別にもう1枚書くよう指示する。 ここがよかったと感じたことを伝え合うために書くことを指導する。 	<p>☆自分たちの作品の表し方の違い、色と形の組み合わせによる感じの違いに関心をもって見る。 【関】③、【鑑】①</p> <p>◇文章化することそのものでなく、観察を深め、感じ取らせて鑑賞活動が充実するよう指導する。</p>
鑑賞 5'	<ul style="list-style-type: none"> 自分宛のカードを読む。 	<ul style="list-style-type: none"> 黙読させ、カードから感じ取ったことが心に届くのを待つ。 表現への意欲喚起、製作衝動が感じられれば、表現活動へ移行させる。 	<p>◇つくり続ける自信につながるよう助言する。</p>
表現 15'	<ul style="list-style-type: none"> 作品の表し方の違い、色と形の組み合わせによる感じの違いに気づき、手掛けた工夫のよさや面白さを見つけ、さらにつくり続ける。 		<p>☆細い線状の材料を編みこんでできる色と形の組み合わせの面白さなどの感じに気づき、それらを生かした表現を楽しもうとする。 【関】②</p>
表現 15'	<p><u>自分だけの編みこみワールドをつくろう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 細い線状の材料を編みこんでできる色と形の組み合わせの面白さなどの感じに気づき、それらを生かし表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 形と形、形と色、材料と色などの組み合わせによって、美しさや面白さの感じが違うことを感じながら、自分の表したい思いを膨らませる。 	<p>☆細い線状の材料を編みこんでできる色と形の組み合わせから思いを膨らませ表したいことが表れるように構想する。 【発】②</p>

【準備】

教師：紙テープ、リボンなど、細長い線状の材料

児童：はさみ、接着剤、ホチキス、身のまわりにある補助材料や加飾材料